

■ 全体講評

今回実施されたプロジェクトマネージャ全国統一公開模試午後 I の記述式問題は、どの問題もオーソドックスで典型的な問題だったと思われます。問題の選択による難易度の差が見られず、短文の記述式解答の問いが数多いという近年の本試験の特徴にならって出題されています。本試験では、問題文の記述内容に関係しないことを聞くような設問はほとんどありません。したがって、午後 I の記述式問題の解答にあたっては、一般的な専門知識を前提に、問題や設問の意図や説明を十分に理解し解答を導いていくことが求められます。つまり、問題文や設問文にある解答制約や手がかりを適切に把握すれば、必ず正解へたどりつくことができるのです。この手順に誤りがあった場合、例えば、一方的な思い込みや自分自身の特定な経験に対するこだわりなどによって不正解の解答になってしまうこともあるので、設問要求や問題の意図するところを読み取り、確実にいえるレベルの表現で解答していくことが重要となります。

不適切な解答の中で多いのは、解答のポイントや方向性は間違っていないのに、設問の考えや趣旨からずれている解答、要求事項や指示に従っていない解答といえます。問題文や設問文に書かれている記述やキーワードは大きなヒントであり、解答の手がかりの一部であることをしっかり理解した上で、設問要求に沿って適切な表現で解答をまとめるようにしましょう。「そこまで限定して解答できるのだろうか」と感じられる強引な解答表現や、色々なことを列挙してどれかが正解に引っかかることを期待するような解答は、採点者に対して心象が悪く、結果として正解とならない恐れがあります。注意しましょう。

なお、午後 I 試験では全 4 問の出題から 2 問を選択解答する必要があります。解答用紙に選択する問題を記すわけですが、きちんと 2 問選んでいない人、丸を付ける欄を間違えて採点欄に丸を付ける人がかなりいました。これは解答以前の問題なのでくれぐれも注意して、指示通り確実に問題選択することを心がけてください。

解答方法の注意点として、とにかく問題文や設問をよく読むことがあげられます。解答のヒントや解答内容そのものを書いてある場合がありますので、それを無視した独善的な解答は避けてください。今回は、漢字の間違いや略字、問題文や設問文と国語論理的にずれた解答が見られています。また、単語レベルで説明不足の解答表現も見られています。特に設問要求に解答表現がきちんと論理的に合致しているかに注意してください。

最後に、論文系の区分の午後 I 試験は詳細なその試験区分の専門知識がなくても問題文の文脈と一般常識で解答が類推できる場合も少なくありません。受験されたほとんどの皆さんが、何らかの開発業務に携わっていると思います。自身の業務経験と合わせて最後まで、あきらめず必ず合格するという強い意識を持って臨むようにしましょう。

<午後 I>

問1 サプライチェーンマネジメントシステムの構築

【採点基準】

[設問1]

- (1) の工程は、それぞれ完答で 3.5 点。工程の記述を省略した表現の場合 2 点。
- (2) は解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 7 点。

[設問2]

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各 7 点。

[設問3]

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各 3.5 点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 7 点。

[設問4]

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 8 点。

【講評】

SCM システムの構築を題材にした契約や計画の変更、品質管理策に関する問題でした。題材となるシステムの業務内容は全く問われず、設問で問われた内容はいずれも頻出の内容と思われます。この試験区分の学習を積んでいれば解答可能であり、できなかった人は、内容をよく理解しておく必要があります。

設問 1 の(1)工程ごとの契約形態を考えます。請負契約を結ぶ工程の解答に「内部設計から総合テストまで」といった省略した表現の解答が多く見られましたが、本試験で省略した表現を使うと減点対象になりかねません。注意してください。(2)は、「成果物の品質保証」の文言をもって正解としています。この観点は試験でよく問われるので注意してください。

設問 2 の(1)は、請負契約として不適切な項目を削除することを解答します。単純に項目の情報価値で判断し

たり、(2)の答えをここで解答したりといった解答が多く見られました。(2)は予定と実績の差異について言及していれば正解としています。設問要求に「納期」とあるのに品質のことを解答するのは不適切ですので注意してください。

設問 3 の(1)は、問題文の手がかりをおさえて解答する必要があります。理由については、一般的な表現では不十分で事例を明確にしている場合を正解としています。(2)は「予算超過」の意味まで含んでいるとき正解としています。

設問 4 は、エスカレーションが解答の要点になります。M 取締役と P 取締役の二人が出てきて正解としています。どちらか一人の場合は 4 点にしています。

問2 ERP パッケージを扱うシステム再構築プロジェクト

【採点基準】

[設問1]

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各 6 点。

[設問2]

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各 6 点。

[設問3]

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点。

[設問4]

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し、組織は 3 点、チームは 2 点、スキルは 3 点。

【講評】

財務会計システムの再構築を題材にした ERP パッケージの扱いに関する問題でした。財務会計のドメイン知識は特に必要はなかったのですが、ERP パッケージに関しては関わった経験があったほうが考えやすい問題でした。ただし、問題文の記述の中で言える範囲で解答することが重要で、自分自身の経験にとらわれて、問題文の記述を逸脱した解答も散見されました。問題文にしたがってきちんと解答しないと得点が伸びないので、適切な解答を確実に探していくことが求められます。

設問 1 は、[現状の財務会計システムの問題点]にある記述を参考に解答する必要があります。解答の内容が断片的で本質をしっかりと捉えていない場合 3 点としています。

設問 2 の(1)は、新 PKG の資産管理業務機能を利用するメリットをおさえて解答します。「コスト面」をとらえて正解としています。(2)は解答の手がかりは明確で、[再構築 PJ における資産管理システムの取扱い]にしっかり記述されています。「精査」すべきところ、粗く調べていることに言及します。正解できなかった人は、設問の意味合いが理解できていないと考えられます。この設問では強引な解釈による解答表現が散見されました。

設問 3 は、アクセス管理や変更管理・構成管理といった統制を解答します。問題文に「財務管理チームと資産管理チームとの橋渡しだけでなく」とあり、明らかに解答はこのことでないことがわかります。にもかかわらず「財務管理チームと資産管理チームとの橋渡し」に関する解答がたくさんありました。問題文をよく見るよう注意してください。

設問 4 の(1)は、問題文に記述のある場所を特定して解答します。同一ロケーションだけを記述した解答は半分にしています。(2)は比較的容易でできは良かったように思います。ただし、下線⑤に「S 社や U 社でない」という記述があるのに、S 社や U 社の組織を解答している答案が散見されています。注意しましょう。

問3 カスタマセンタ業務支援システム構築プロジェクトの進捗管理

【採点基準】

[設問1]

空欄 a は、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 2 点。人物名でなく「プロジェクトオーナー」という場合 1 点。理由は、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点。空欄 a が不正解の場合、理由は無条件に不正解。

[設問2]

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 7 点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 4 点。

[設問3]

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 7 点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 8 点。

[設問4]

内容は、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 10 点。理由は、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点。

【講評】

カスタマセンタ業務支援システムの構築を題材とした進捗管理の問題でした。問題文が長く、時間がかかるという意味で、難易度が高く感じられたと思いますが、本質的な問題内容としての難易度は決して高くはありませんでした。

設問1の空欄aは、プロジェクトオーナーの役割に着目して解答する必要があります。問題文の該当箇所の文脈から、人物名を解答する必要があります。「プロジェクトオーナー」という解答は1点にしました。また、理由は、「A社内でやるべき」というレベルの表現では、半分の得点としています。

設問2の(1)は、問題文に書かれていることは結果であり、一般性のある解答の表現が求められます。ピンポイントで対応の不適切さだけに注意する趣旨の解答の場合、4点としています。(2)は、元に戻す趣旨まで含んで正解としています。「中止する」では、作業を止めてその後どうするかははっきりしないので半分の得点としています。

設問3の(1)は、修正工数の見積もりとして1本から簡易に計算している精度の甘さをおさえて正解としています。(2)はプログラムのそれぞれの内容を勘案し合算する趣旨の解答を正解としています。修正工数に関連する別の要素が考慮されていない旨の解答が散見されていますが、確かに問題文に言及がありませんので気になるところです。しかし、言及がないので、考慮されているかどうかは不明であるというのが適切な認識です。解答の筋は確実に言えるレベルで考えていくようにしてください。

設問4は問題文の記述にしたがって考えれば比較的導出は容易です。表現が甘い解答は半分の得点にしています。

問4 システム開発での外部委託先の選定・評価

【採点基準】

【設問1】

自社開発のメリット、外部委託のメリット、決定的な根拠、それぞれ解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。

【設問2】

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各6点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。

【設問3】

- (1) 解答例どおりのみ2点。
- (2) 会社名は、解答例通りのみ2点。選定理由は、解

答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し4点。

- (3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。

【講評】

外部委託先の選定・評価に関する問題でした。この問題は設問解答数が多く、題意や設問要求を理解し適切に解答することが特に求められます。定量的な問題であるため、数値の意味に着目することが大切です。

設問1は、メリットを明確にすることと、両方のメリットを踏まえて外部委託を優位とする根拠をしっかりと考察し解答します。自社開発のメリットとして「仕様や対象業務に精通している」という答えが多く見られました。この解答ではどういう利点・便益があるのかやや不明確で、「何ができるのか」まで踏み込んで解答している場合に正解としました。外部委託先のメリットも問題文の記述を正確に汲み取れば解答可能です。自然に解答してください。外部委託でなければならない根拠を考察すると、上位マネジメントの意向があることが分かります。この部分の問題文の記述の参考が甘い場合は半分の得点にしています。

設問2の(1)は、費用と内容のバランスに関する観点をおさえて正解としています。抽象的で表現が甘いと判断した場合、半分の得点としています。(2)は、下線②のすぐ次に四つの要素の配点の記述があるので、配点の意味を説明する必要があります。設問で要求されていることは、

- ・プロジェクトの事情
→「遅延がないよう厳命されている」
- ・どのように考慮
→「スケジュールの妥当性の項目の配点を多くして反映した」

という構図になります。したがって「遅延がないよう厳命されている」という解答は不正解にしています。

設問3の(1)は、総合点の数値と圧倒的な違いから解答は明確と思います。正答率は良かったです。(2)の会社名は、総合点の差異をひっくり返すほどの要素が見当たらないことから、次点候補が決まるというものです。A社を選択した場合理由は簡単ですが、解答に時間がかかったものと思われ決して容易な設問ではなかったようです。(3)は基準の話なのに、新たな項目を設定する解答が多かったです。内容点の四項目全部に言及して内容がややあいまいな解答もありました。これらはいずれも不正解としました。なお、本文の文脈として、基準の議論を内容点、価格点で行っていて、目的の趣旨を結果として果たせるという観点から、「内容点の基準を引き上げ

る」,「価格点の上限の期限を設ける」という解答も正解としました。

一般的に記述式の解答は,問題文を踏まえて「確実にいえるレベルの表現で」解答をまとめることが大切です。また,日頃自分が使っている表現をそのまま使うことは避けて,誰にでも分かってもらえる明解な表現を心がけてください。そうすることが得点力を高めますし,解答の実力を養っていくことにつながります。

以上

itec